

防災対策について

質問Ⅱ避難勧告を分かりやすく 答弁Ⅱ細かい地域別に発令する



市川 けんじ 議員

災害警戒判定メッシュ情報により避難勧告となった。もう少し分かりやすい検討をする」との報告があったが、その後どのように検討をしたのか。

土居総務課長

令和元年5月29日に運用が開始された5段階の警戒レベルについては、町も運用を開始しており、防災行政無線やメール配信を通じて、町が発令する避難準備・高齢者等避難開始であればレベル3、避難勧告や避難指示であればレベル4、既に災害が発生している場合はレベル5、災害発生情報を発令するなど、それぞれのレベルに応じた避難情報を伝達していく。

町地域防災計画では、土

また、平成30年7月6日には枝川地区で、9月30日には本川の高藪・脇の山地区に土砂災害警戒情報による避難勧告を発令した。地域からは「近くに山もないのにどうして」などの問い合わせも多かったと聞く。町からは「気象庁の土砂

ら、より細かい地域を対象とした避難情報の発令に生

かしていく。

有害鳥獣対策について

質問Ⅱ町が率先すべき 答弁Ⅱ地域の意見を聞いて進めていく

市川議員

有害鳥獣対策については先の3月議会でも質問をし、副町長からは「新年度の協議会で検討をする」との答弁をもらっていたが、協議会はいづ開催するのか。

広報「いの」5月号に「よさこいジビエコンテスト」において「本川地区で活動している地域おこし協力隊員が鹿と猪の合いびき肉を使ったハンバーグレシピで優秀賞を受賞した」とのニュースが掲載されていた。

高知県ホームページでは、このコンテストは応募人数16人から20点のレシピ、イベントプランが寄せられ「商品開発部門」「ジビエ普及部門」それぞれに優秀賞が選ばれたとのこと。

これは大変素晴らしいことだ。有害鳥獣対策としては駆除ができて人が呼べる。

高知県のホームページでは、そのレシピも掲載されていたので全国で提供が可能だ。

しかし、町の地域おこし協力隊員が応募し、受賞したのだから、町はせっかく地域発展の起爆剤ができたのに、このまま何もしないのか。

何とかこれを生かすために、まず、地産地消から始めることはできないか。

現在の町では、せっかく

捕った鹿肉や猪肉は活用ができない。

「ジビエカー（ジュニア）」の導入を検討する良い機会ではないか。

野生鳥獣肉の販売には課題もあるが、やる気がなければ進まな

い。町が率先し前を切っていくべきだ。

久松副町長

協議会は7月中旬から8月上旬を目標に開催をする。

地域おこし協力隊員が受賞したことは大変誇らしいことだ。中山間地域での貴重な収入源、地産地消の推進といった農業分野の振興だけでなく、商品開発を通じた観光面での多角的な可能性をもっていると考えている。

協議会において出てきた意見や地域からの声を聞きながら、今後の方向性を決めていく。



奥山素材のハンバーグステーキ